

## 2015年3月期 第一四半期決算説明会 質疑応答

2014年8月6日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

**Q1：**第1四半期の営業利益は、FY14上期の業績予想に対し、58%と高い進捗となっている。販管費も通期の計画に対し、低い水準で進捗している。第2四半期以降もこの水準が続けば、業績予想を上回ると思われるが、見通しを修正しないのか？

**A1：**第1四半期は、TCVS社の品質システム改善費用の発生が前年比で5億円少なかったが、通期では計画通りの発生を見込んでいる。販管費は、欧米でのカテーテル販売体制の強化、Ultimasterなどの新商品拡販に向けた投資等により、増加する見通し。また、ITシステムの償却も発生する。研究開発費は、昨年譲渡した次世代型補助人工心臓システムの開発費分が減少するが、その他の開発については、計画通り進捗している。多少の期ズレ等はあるが、売上・利益ともにほぼ計画通り進捗しており、通期の業績予想に変更はない。

**Q2：**FY14の業績予想では、前期比で増産効果・コストダウンによる営業利益の増益額を38億円と見込んでいるが、第1四半期で既に14億円の増益となっている。第2四半期以降も同じ水準で改善が続くのか？

**A2：**14億円の内、TCVS社の品質システム改善費用の発生が前年比で5億円少なかった分が含まれている。通期達成に向けて心臓血管カンパニーの売上成長による増産効果、ホスピタルカンパニーの収益性改善を予定通り進めていく。

**Q3：**心臓血管カンパニー、ホスピタルカンパニーの計画に対する進捗は？

**A3：**心臓血管カンパニーは、第1四半期は海外のカテーテル売上が好調に推移し、売上・利益ともに通期予想に対し、ほぼ計画通りに進捗している。ホスピタルカンパニーは、薬価・公定価改定、消費税増税の反動減で減収となり、やや弱かったが、今期からスタートした基盤医療器の原価改善等、収益改善の効果が出ており、今後着実に収益性の改善が進むと考えている。

**Q4：**心臓血管カンパニーの事業利益率は19%から21%に改善しているが、新製品の導入効果、原価改善による貢献はあるのか？

**A4：**愛鷹工場のコストダウン、ベトナム工場への生産移管の効果が表れている。更なる改善を図っていく。

Q5：消費税増税に伴い、医療機関からの値下げ要求が厳しくなっていることはあるか？

A5：価格下落の水準については想定通りであり、昨年と比較して特に今年の落ち込みが大きいということはない。

Q6：第1四半期に発生した減損の内容は？事業の棚卸に伴い、新たに発生した減損か？

A6：昨年減損を実施したCV事業において、昨年と同じ基準で、追加投資を行った分に対して減損を実施した。事業の棚卸に伴い、新たに発生した減損ではない。

以上